

文学部の教育理念・目的

教育理念

人間、社会、文化の実態と本質を探究し、広い視野と高い専門性を備えたところ豊かな人間を育成し、地域社会と国際社会に貢献する。

概要

文学部は1992年、本学の堅実な伝統を学風として受け継ぎながら、新時代にふさわしい学際型の教育体系を持つ人間科学科と国際文化学科の2学科として出発しました。

以来、2000年には社会福祉学科を増設、2002年には人間科学科を改組発展し、心理学科と情報社会学科を新設。さらに、2008年度からは国際文化学科は英語コミュニケーション専攻と国際文化専攻に、社会福祉学科は子ども家庭福祉コースと医療福祉コースに改組しました。

新しい時代の趨勢に即応するユニークな学部を目指しています。

国際文化学科

現代の国際化社会において、言語の習得と研究、日本・アジア・英米・ヨーロッパの地域文化、比較文化の研究、それぞれの地域の歴史と歴史文化の研究及び異文化交流の実践等の分野にわたって学生の多様な関心に応え、地域に根ざし、世界に目を向けて、異文化間の相互理解と交流に協力・貢献できる人材を育成します。

社会福祉学科

人間愛と人権尊重に基づき、高度な社会福祉の理論と実践能力を備え、地域社会の福祉ニーズに応えられるヒューマンサービスの担い手として、社会福祉施設や団体、医療機関・病院、行政機関、福祉関連企業、保育園などで活躍できる社会福祉士や精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、保育士などを育成します。

心理学科

自己や他者の理解、能力発揮の方法、悩みやストレスの緩和、相談援助、健康なライフスタイルの形成、グループの運営やリーダーシップなど、日常生活の中での自己、他者、対人関係、集団、社会における人間の態度や行動の法則性を科学的に研究し、現実社会に役立つ具体的な方法論を確立できる「こころの専門家」を育成します。

情報社会学科

現代社会が生み出す膨大な情報を収集し、解析し、処理し、自らも発信するための高度な情報活用技術を身につけ、さらに社会科学諸領域から得られる多様な観点の下に理論的・実践的に社会調査を学ぶことで、人間や社会に対する広汎で体系的な理解力と社会が抱える諸問題の解決に必要な総合的判断力を備え、地域社会に貢献できる指導者を育成します。

人間健康学部の教育理念および特徴

乳幼児から高齢者まで生涯を通じた健康づくりに貢献できる人材を養成。
医学部をもつ久留米大学の強みを生かした文系と医系の連携「文医融合」により、文系学部でありながら幅広い知識と技術が学べる新しい学部です。

地域で保育や子育てを主理する人材を養成する

「総合子ども学科」

医学的な知識を備えてスポーツ教育などに取り組む

「スポーツ医科学科」

の2学科を展開し、少子・超高齢社会において、乳幼児から高齢者まで生涯を通じた健康づくりに貢献できる人材育成を目指します。

文医融合の新しいステージから現代社会の健康づくりに取り組み、未来の社会に活躍する人材を育成します！

さまざまな夢に向けて専門的に学ぼう！あなたのこのような思いに応えます！

子どもの世界をさまざまな研究領域から総合的に理解したい！

乳幼児期からのからだや心の発達について専門的に学修したい！

病気やケガ、障がい、児童虐待などさまざまな課題を抱える子どもの力になりたい！

子ども・家庭・地域の問題を深く知り、子どもの家庭の支援に取り組みたい！

スポーツによるけがの予防と回復方法についての専門知識と技術を修得したい！

スポーツに関わる仕事をしたい！

スポーツ文化全体に関わる仕事をしたい！

各種スポーツに共通する身体について専門的に学びたい！

教育の特徴

健康づくりに必要な「からだ」についての専門知識を幅広く学修する。

子どもの世界をさまざまな研究領域から探究し、総合的に理解する。

現代の子どもや子育ての課題に対応する専門知識と技術を身に付ける。

スポーツを医学的・科学的な面から総合的に理解する。

スポーツをする人々をサポートする実践力を身に付ける。

法学部の教育理念・目的

法学部は、変転極まりない現代世界にあって、目的と手続きとの関係を見通す法的思考力（リーガルマインド）と国際的視野に立った判断力とを培うことにより、憲法の理念である人権、平和および民主主義にもとづいた社会の発展に貢献できる社会人を養成することを目的理念としています。この共通の理念のもとに法律学科と国際政治学科を設けています。

【法律学科】

法律学科は、社会紛争を予防・処理するための法的思考力を高めるために設けられています。憲法をはじめとする基本的な実定法である六法はもちろん、多様な現代社会に対応した情報・福祉・環境の法や国際関係法の分野、また法の由来や根拠を考える法哲学・法制史などの基礎法分野、さらに生きた法を体験できるように法実務関係の分野などの学修をとおして、多様な現代社会の法を総合的に理解できるようにするのを目標としています。

【国際政治学科】

国際政治学科は、現代社会の多面的な相互理解を通じて社会紛争の原因と対応法を考える力を養うために設けられています。世界各地の社会を比較しながら現代世界の政治背景を知り、国際関係論や政治学の知見に親しんで社会紛争の予防・対応法を考え、さらに外国語や情報技術を通じたコミュニケーション力を高めるのを目標としています。

経済学部 of 教育理念・目的

経済学部は、「ローカルとグローバルの統合的視点を持ち、経済学の知識・発想を生かして地域社会・国際社会の持続的な発展に貢献できる実践的人材を育成する」ことを理念・目的としています。

21 世紀は、環境や文化を大切にす時代です。これまでの大量生産、大量消費、効率中心の経済社会から、人間らしい視点を重視する新しい時代を迎えています。専門的知識に加えて、総合的・文化的な視野を備えた人材を、国も地域も求めています。経済学部は、そうした時代の要請に応えることのできる人材を育てます。

【経済学科】

経済学科には 3 つのコースがあります。

経済理論・政策コース

経済理論を学び、多様な視点から経済政策の方法と必要性を考えます。これらの勉強を通して、現代社会に貢献できる提言を行い、企業および地域社会のリーダーとしてアクティブに活躍できる経済人を育成することを目的としています。

国際比較経済コース

世界経済の構造について学び、世界の各国・核地域の経済を比較分析しながら、ダイナミックな世界経済の展開と多様な価値観を理解し、貿易・国際関連サービスや海外での企業活動に対応できる基礎的素養を身に付けます。経済社会に貢献しつつ、国際社会に向けて的確な情報発信ができる経済人を育成することを目的としています。

金融・情報コース

IT (情報処理技術) を学びつつ、金融システムとその役割を理解し、IT を応用して金融に関わる情報の収集・分析方法を習得します。このような勉強を系統的に行うため、本コースには IT に関わる科目に加え、金融工学、企業評価論、証券市場論など多彩な科目を配置し、経済情勢を正確に判断できる経済人を育成することを目的としています。

【文化経済学科】

物質的に豊かな社会を実現したといわれる 20 世紀。そして 21 世紀に入った今、経済を動かす一原動力としての文化の役割が注目されています。経済と文化の相互作用を追究する分野が文化経済学です。経済の活性化に果たす地域固有の資源や文化の役割・機能に注目し、その理論から実践方法まで学んでいきます。文化経済学科には、「豊かな地域の創造」に結びつく住民参加型地域づくりを学ぶ「地域創造コース」と、地域レベルでの環境に配慮し

た持続可能な地域づくりを学ぶ「環境・ツーリズムコース」があります。

地域創造コース

住民主体の地域づくりのための理論と方法、特に、非営利組織や市民事業、地域文化など、住民参加を通じて、豊かな地域づくりをめざすことに重点を置き、それらの理論と事例を、実践的活動を通じて学びます。

環境・ツーリズムコース

20世紀における産業本位の経済活動の結果、さまざまな環境問題が生じていますが、21世紀においては、環境に配慮した持続可能な社会の形成が、住みよい豊かな地域づくりのための必要条件とされています。環境やツーリズムに関する理論と手法を、実地研修を通じて学びます。

商学部の教育理念・目的

新しい社会をひらくビジネス・リーダーの育成

ビジネス・リーダーとは、経営者だけではありません。

組織のトップに立つだけでもありません。たとえ有力な立場になくとも、存在感をもってそれぞれの役割を大に果たす人。こうした人材こそ、ビジネス・リーダーといえるでしょう。ビジネス社会だけでなく、公務員、教育職員、あるいはまた家庭経営においても役立つ人材の育成を商学部はめざしています。

この教育理念を実現するために、次の3つの教育方針を重視した体制を採っています。

1. ゼミ中心の少人数教育

1年から4年までの演習（ゼミ）教育に重点を置き、学生の個性や自主性を尊重したぬくもりのある教育を実施することを目標としています。その結果、高い専門性と豊かな教養とをあわせもったビジネス・リーダーの育成を可能にしています。

2. 実践科学の尊重

ビジネス・リーダー育成のために、専門教育科目において実践性を尊重しています。技術・技法の習得にとどまらず、その背景にある理論もあわせて理解させることに焦点を当てています。

3. 地域社会との連携

地域社会における教育・研究の中核機関です。一人ひとりの能力を社会全体に寄与する能力に高め、ビジネス・リーダー育成の理念を実現させる役割を担っています。社会教育・公開講座などを実施し、個人研究・共同研究など地域への還元、国際交流、さらに卒業生との連携などによって、成果を未来につなげています。

久留米大学基本理念・医学部医学科理念・使命・学修目標・学修成果

久留米大学基本理念

久留米大学は、真理と正義を探究し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする。

医学部医学科 理念・使命(教育目的)

理念

「国手の理想は常に仁なり」

使命(教育目的)

時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進する人材を育成する。

3つのポリシー

アドミッションポリシー

医学部医学科は、医学科理念「国手の理想は常に仁なり」のもと「時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進する」という目的に対する知識と技術を習得できる学生を求めています。

本学の医学部医学科の学修目標（三大目標）は以下のとおりです。

1. 医師や研究者として職責を果たすのに必要な知識と技能を修得する。
2. 患者に寄り添うとともにチーム医療の実践に必要な態度と習慣を身につける。
3. 時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる人間性と良識を涵養する。

この目標に沿って、本学科の入学受入方針は、以下の3点です。

1. 医学や医療の知識と技能を能動的かつ積極的に修得できる基礎学力と学習能力がある人
2. 診療や研究で実践的に活躍できる人間性・協調性・倫理観がある人
3. 時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる柔軟性・積極性・向上心がある人

カリキュラムポリシー

医学教育モデル・コア・カリキュラムと卒業時モデル・コア・コンピテンシーを踏まえた独自性のあるカリキュラムを編成し、一般教養・基礎医学・社会医学・行動科学・臨床医学・医学英語を段階的・系統的に学習できる魅力的なカリキュラムを実施する。

1～2年次では、幅広い知識と自主学習の技能を修得するために多彩な一般教養科目を設定し、人体の構造・機能や生命現象を理解するために基礎医学科目を充実させ、医療や介護

の現場を知るために医学入門実習や施設体験実習を提供する。

3～4年次では、疾患の病態や患者の診察を理解するために診療科別の臨床医学科目を充実させ、診療や研究に従事する教員が専門領域における最新情報を提供するとともに、社会のニーズや医療情勢を知るために社会医学や行動科学に関する科目を提供する。

4～6年次では、基本的な診療技能を修得後に初期臨床研修にスムーズに移行するために診療科別の臨床実習を施行する。大学病院や教育関連病院でチーム医療や多職種連携を体験させるとともに、問題解決能力やコミュニケーション能力を修得するために診療参加型実習を充実させる。

アクティブラーニングを支援する学習機器や訓練施設を充実させ、仲間と学び合う協同学習（1年次）、科学的探究心を育む研究室配属（3年次）、臨床実習前訓練（4年次）、卒前統括講義（6年次）などの特色あるプログラムを実施する。

ディプロマポリシー

本学医学部医学科は、学修目標（三大目標）すなわち、医師や研究者として職責を果たすのに必要な知識と技能および患者に寄り添い同僚と助け合うのに必要な態度と習慣が身につき、かつ時代や社会のニーズに対応するのに必要な人間性と良識が涵養されたことが、厳格な判定によって確認された場合に学士を授与します。

学士課程卒業にあっては、以下の点に到達していることが求められる。

- ・医師国家試験に合格する医学知識と技術水準が備わっている。
- ・医師として意欲を持って、社会、地域、組織の中で高い倫理観と責任感を持ち、多くの人と協力して医療と研究を継続的に実践できる。
- ・生涯学習を続け、医師として社会と地域の多様なニーズに対応できる基本的能力と習慣を習得できている。
- ・豊かな人間性と幅広い教養、そして高いコンプライアンスを有する社会性のある医師としての基本的な能力とマナー、良識が涵養されている。
- ・医学の国際化と交流に対応できる能力がある。の研究を推進する人材を育成する。

医学部医学科 学修目標(三大目標)

学修目標(三大目標)

1. 医師や研究者として職責を果たすのに必要な知識と技能を修得する。
2. 患者に寄り添うとともにチーム医療の実践に必要な態度と習慣を身につける。
3. 時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる人間性と良識を涵養する。

医学部医学科 学修成果（卒業時コンピテンス）

1. 高い倫理観と職業意識

- (1)医師に必要な良心・利他の心・誠実さ・謙虚さを備えている。

(2)医師としての誇りと責任感を持ち、患者中心の医療を実践できる。

(3)社会人としての良識と規範を守る態度を備えている。

2. 豊かな人間性と一般教養

(1)患者・家族を思いやり、苦痛や不安に共感する心を備えている。

(2)患者・家族の価値観や心理社会的背景に配慮できる。

(3)人文・社会・自然科学の幅広い知識と一般教養を備えている。

3. 総合的・実践的な診療能力

(1)臨床医学の知識と技能を修得し、医療面接や身体診察を行える。

(2)患者の病態と重症度を把握し、検査計画や鑑別診断を行える。

(3)患者情報とエビデンスを統合し、診療録作成や病状説明を行える。

4. チーム医療の実践と安全性の確保

(1)医療に関わる多職種の役割を理解し、チーム医療を実践できる。

(2)患者・家族を含めたチーム医療に参加し、良好な関係を構築できる。

(3)医療のリスクを理解した上で、良質で安全な医療を提供できる。

5. 地域・国際社会への貢献

(1)地域の疾病構造や医療環境を理解し、疾病予防や健康増進に貢献できる。

(2)国籍・人種・宗教・信条・習慣の多様性に配慮できる。

(3)海外の健康問題や医療事情を理解し、国際活動に貢献できる。

6. 科学的探究心と自己研鑽

(1)疑問を感じ真実を求める科学的な研究姿勢を備えている。

(2)国内外の医学研究の動向を知り、科学的研究に興味を持てる。

(3)生涯にわたり協同の精神で自己研鑽に努めることができる。

医学部看護学科の教育理念・目的

教育目的

久留米大学医学部看護学科は、豊かな人間性と倫理観を培い、看護の実践・教育・研究を推進し、人類普遍の生きる力に光を与え、広く社会的使命を果たせる人材を育成する。

教育目標

人間の個性を尊重し、身体的・心理的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。

生命の尊厳に基づく倫理観を備え、人々の権利を尊重・擁護する態度を養う。

人々の健康問題を科学的根拠に基づき分析・判断し、実践に必要な知識・技術・態度の基礎を養う。

自ら看護の現象を探求し、看護学を発展させることのできる能力を養う。

保健医療福祉の向上のために、他領域の専門家と協働し、必要に応じて調整的な役割を果たす能力を養う。

社会情勢や医療の動向に対し、看護が担うべき役割をとらえ、将来、国際社会に貢献できる能力を養う。

3つのポリシー

アドミッションポリシー

本学科での看護学教育の中で、その内容を十分に修得し高校生から看護師・保健師の卵へと成長するには、看護への思い、看護職としての適性以外に、高等学校において、自己表現能力、コミュニケーション能力や論理的思考を身に付けておくことが重要であると考えています。

本学科が求める志願者像

人と接することの好きな人

温かく優しい心を持った人

学修意欲があり、努力を怠らない人

なにごとにもチャレンジ精神のある人

看護学を学ぶ上で基礎学力を有する人

カリキュラムポリシー

広い視野から人間を総合的に理解するために、倫理観を培い、感性を磨くことを目指し、豊富な選択科目を配置しています。

人の健康について、看護学の教育内容と密接につながるように、専門基礎科目の基礎医学・臨床医学系の科目を配置しています。

看護実践の基礎的能力を養うため、人間の発達段階、健康の段階、生活の場を主軸にし、看護師課程と保健師課程の教育内容を4年間のカリキュラムの中で有機的に統合しています。問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢・科学的思考を育成するために、科目として「研究」を4年間で段階的に配置し、丁寧な個別指導を行っています。

保健医療福祉の様々な分野において他

職種と連携・協働する看護の役割を学ぶため、多様な実習場で、多職種連携教育を実施しています。

地域および国際的視野で人々の文化、生活、健康を理解し、社会に貢献できる人材の育成に向けて、2年間にわたり外国語科目を充実させるとともに、「ボランティア活動」「災害看護学」「国際看護学」を配置しています。

ディプロマポリシー

本学では、授業科目及び単位数の卒業要件を満たし、以下の能力を修得した学生に対して、「学士」（看護学）の学位を授与する。

豊かな感性と創造力を持ち、主体的に行動することができる能力

倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力

看護学の基礎的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力

看護の現象を自ら探究し、問題を解決することができる能力

他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力

地域および国際的視野で、社会に貢献することができる能力

【久留米大学】

建学の精神

国手の矜持（ほこり）は常に仁なり

基本理念

真理と正義を探究し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする。

【医学部医療検査学科の教育理念・目的】

教育目的 医学部規則第1条

医療検査学科は、メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師を育成することを教育目的とする。

ディプロマ・ポリシー

久留米大学の建学の精神、基本理念に基づき、ディプロマ・ポリシーに記載する「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」となる能力を修得したものに対して卒業を認定し、学位を授与する。

- ①医療人・研究者として高い倫理観と豊かな人間性が備わっている。
- ②臨床検査の基本的知識・技術を修得できている、実践する能力がある。
- ③医療チームの一員として医療活動に参画し、適切な臨床検査を提供できる。
- ④社会における多様な臨床検査のニーズに対応する能力がある。
- ⑤科学的思考力を身に付けており、生涯学習を行う意欲と習慣が備わっている。

カリキュラム・ポリシー

医学部医療検査学科では、卒業認定・学位授与の方針に設定しているディプロマ・ポリシーが達成できるように、カリキュラムを「臨床検査プログラム」、「全学的文医融合プログラム」「医学部連携プログラム」の要素により構成する。さらに、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分して編成し、講義、演習、実習、臨地実習を組み合わせたカリキュラムとする。

- ①臨床検査の専門的な知識と技術を修得する「臨床検査プログラム」、ヘルスサイエンスを学ぶ「全学的文医融合プログラム」、多様な分野の専門家から教養とチーム医療を学ぶ「医学部連携プログラム」の3の要素によりカリキュラムを構成する。これらを1年次から4年次の間に基礎から応用まで段階的に学修できるように、教育課程を「基礎科目」、

「専門基礎科目」、「専門科目」に区分して編成する。

②臨床検査プログラムでは、はじめに医療従事者に必要な科学的知識、心理学、英語を、その後、医学と検査機器の基礎や臨床検査の実践において必要となる知識と技術を修得した後に、臨地実習による実践的職業訓練を実施する。3～4年次には、臨床検査応用選択コースにおいて特定の臨床検査の修得と研究に向けた少人数教育を行い、卒業研究に発展させる。

③全学的文医融合プログラムでは3分野のヘルスサイエンス教育を実施し、次世代型の臨床検査技師として社会の新たなニーズへ対応する能力を養う（生命科学から発展した新たな医療・診断技術、遺伝子解析などを学ぶ「バイオサイエンス（基礎・応用）」、情報科学とAIについて学ぶ「データサイエンス（基礎・応用）」、保健医療福祉制度及び医療情報管理を学ぶ「マネジメントサイエンス（基礎・応用）」）。いずれも基礎は必修科目として3年次までに学修する。その後のヘルスサイエンス応用選択コースでは、自ら興味を持った分野を深く学び、研究や実臨床で活用する能力を養い、卒業研究に発展させる。また、「マネジメントサイエンス」の応用選択コースを履修すると、3年次に診療情報管理士の資格試験を受験することができる。

④医学部連携プログラムでは、医学科、または看護学科の学生との合同授業を各学年で行い、医療や医学研究に携わる者として共通の立場、あるいはチーム医療で異なる役割を担う立場から、互いを尊重しながらコミュニケーションを図り、チーム医療の重要性とそれぞれの役割を理解する。

アドミッション・ポリシー

医療検査学科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、以下のような学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」）を備えた人を求める。

- ①臨床検査学の修学に必要な基礎学力、思考力を備えた人（知識・技能）
- ②社会に関心を持ち自ら課題をみつけ、学問的裏付けをもって解決策、解答を導き出す姿勢がある人（思考力・判断力・表現力）
- ③自らの健康を管理し、明確な目的意識を持ち規則正しい生活を送ることができる人（主体的な生活態度）
- ④日進月歩の臨床検査に係る技術・専門について、隣接分野での学習にも精力的に取り組み、医学・保健医療の分野で貢献したいという強い意思のある人（主体性を持って学ぶ態度）
- ⑤他者に対して礼を以って接し、周囲と協調して適切なコミュニケーションができる人（多様な人々と協働して学ぶ態度）

ディプロマ・ポリシーに対応する具体的な到達目標（卒業時コンピテンシー）

1. 高い倫理観と豊かな人間性

- 他者を思いやり、社会人としての良識と規範を守る態度を備えている。
- 医療及び医学研究における倫理観を備え、医療人としての責任感を持っている。
- 一般教養を備え、医学の領域にとどまらない多様な価値観が存在することを認識している。

2. 臨床検査の基本的知識と実践能力

- 臨床検査の知識と技能を修得し、基本的な各技法を安全、的確に実践できる。
- 精度管理の重要性と方法を理解し、精度の高い検査結果を提供することができる。
- 検査結果の解析と評価により病態を理解する視点を有し、医療や研究において適切に臨床検査を活用することができる。

3. 医療チームの一員として参画する能力

- 医療・研究の場において他者と良好な連携を保ち、協働できる。
- 患者・家族に対する適切な配慮とコミュニケーションの必要性を理解し、実践できる。
- 医療に関わる多職種の役割を理解し、チーム医療に参加した時の自身の役割を想定できる。

4. 多様な臨床検査のニーズに対応する能力

- わが国の保健医療福祉の変遷を理解し、これからの地域医療、感染症対策、災害医療、在宅医療などで求められる臨床検査を提供できる。
- 国際的視野に基づいた保健医療活動の必要性とその方法を理解し、実践できる。
- 医療や医学研究の分野において、科学技術の進歩により変化する臨床検査への新たなニーズを理解し、率先して参画する意欲を備えている。

5. 科学的思考力と生涯学習の習慣

- 科学的思考力を基盤とした問題発見・解決を生み出す姿勢、及びその成果を発信する技法を身に付けている。
- 医療・研究において問題解決に必要な情報を収集し、適切に吟味する方法を身に付けている。
- 保健医療の維持と発展のため、生涯学習を前提とした自己研鑽を積む意欲と姿勢を持っている。

比較文化研究科の教育理念・目的

比較文化研究科は、学際的かつ総合的な研究を基本理念として、文学部・法学部・経済学部・商学部・比較文化研究所・外国語教育研究所・健康・スポーツ科学センターを基礎とした文系の総合的大学院です。九州という地の利を生かし、世界文化と人間行動についての構造と機能を比較分析し、文化接触の実態を総合的かつ分析的に研究する能力を備えた優れた研究者と高度に専門的な業務に従事するのに必要な錬度高い能力を得るような人材の養成を教育理念としています。

本研究科には、前期博士課程と後期博士課程があります。

前期博士課程は、総合文化コースと専修文化コースに分かれ、修了者は修士の学位が与えられる他、中学・高校教員専修免許状や、各種の資格取得に有利な条件を提供しています。

総合文化コースは主に修士学位取得後、後期博士課程に進んで博士学位を目指すことを目的とします。専修文化コースは、修士学位を取得し、税理士等、高度の専門性を要する職業に就く事を目的とし、9つのコース（法文化、政治文化、経済文化、英米文化、言語教育学（英語・日本語）、地理科学文化、保健福祉社会学、健康文化、環境、地域社会・経済）を設けています。

後期博士課程は、博士の学位を取得し、専門の研究者として自立できる人材の養成を目的としています。

心理学研究科 基本理念・教育の目的

基本理念

心理学の基礎的研究を中心とした学術研究の推進とともに高度の心理学的な専門能力と実践力を有する人材の育成及び基礎的・先駆的な学術研究を推進可能な研究者を養成する。

教育の目的

【前期博士課程(臨床心理学専攻、人間行動心理学専攻)】

(臨床心理学専攻)

臨床心理学における優れた学識と実践力を有する高度専門職職業人及び研究者の養成を目指す。

(人間行動心理学専攻)

心理学における知覚・認知分野、教育・発達分野並びに社会・集団分野の優れた学識と実践力を有する専門家及び研究者の養成を目指す。

【後期博士課程(心理学専攻)】

人間行動心理学及び臨床心理学の両分野における基礎的・先駆的な学術研究を推進可能な優れた研究者の養成を基本的な役割とするとともに、心理学に関する特定の職業等に必要となる高度の専門的知識と能力の育成を目指す。

ビジネス研究科の研究科概要

理念および目標

教育理念：新しい社会をひらくビジネス専門職業人・研究者の育成

(1) 商学部との一貫体制でキメ細かい高次教育

ビジネス研究科は、基盤学部である商学部と密接な関係を維持し、より社会のニーズに対応できる高度でキメ細かいビジネス教育・研究を行うことを目的としています。

(2) 地域ビジネスの活性化と共に

本学のビジネス系高次教育は、よりターゲットを明確にした、地域ビジネスの活性化に資するための人材養成を目的としています。すなわち、研究者への道を残すとともに、産・官・学3者の密接な協力のもと、地理的優位性を踏まえて、九州地区の企業・公的組織体の中で中核となるに相応しい高度の専門的知識を備えた人材の育成を目指しています。

(3) 社会のニーズの変化とビジネス研究科の対応

近年の社会環境の変化は、ビジネス系高次教育への多彩なニーズの発生と、多方面からの異なったキャリアを持つ志望者を生むことになり、これに応えることが、大学院ビジネス研究科の存在意義となっています。

方針と特色

上の理念を受けて、具体的な教育課程編成と特色は以下のとおりです。

(1) 基礎科目、専門科目、演習の3層カリキュラム

基礎科目は、ビジネス系高次教育の基盤知識を十分に学習していない入学者にも配慮した科目群です。ビジネス系以外の分野からの入学者も基盤知識を習得できるように基礎科目が配置されており、異なった分野からの入学者も歓迎しています。既にビジネス系の基礎知識を持つ入学者は商学、経営学、会計学、基礎情報科学、会社法といった基礎科目の履修を免除されます。

(2) 専門科目は2コース配分

ビジネス研究科は、マネジメント、アカウンティングの2コースから編成されています。マネジメントコースには、伝統的な商学・経営学の科目および現代ビジネスの新たなビジネス領域に属する科目、アカウンティングコースには、会計学関係に環境・知財会計も含む科目を配置しています。

(3) 演習

演習はビジネス研究に関する論文指導をより効果的に実施しようというものであり、指導教員が適切なアドバイスを定期的に行うことができるようにカリキュラムにとり入れています。

以上のコース分けにより、公認会計士・税理士・教員・公務員などの資格取得支援や新規領域を含めて、組織内でリーダーシップをとれる優秀な人材の育成を目指した研究・教育が可能です。

修士課程

大学院ビジネス研究科は、基本的には「ビジネス」を中心に据えて研究を行う大学院ですが、入学者がこれを学ぶ場合、専門分野に応じて、次の2つのコースを設けています。

マネジメントコース

伝統的なビジネス系科目（商業論、貿易論、交通論、流通論、保険論、マーケティング論、経営管理論、経営組織論、財務論、経営史など）に加えて、ビジネスの新たな動向に取り組む科目（経営戦略論、ITビジネス論、イノベーションマネジメント論、国際ビジネス論など）が配置されており、企業のビジネス活動に関する多様な研究が可能なコースです。

アカウンティングコース

企業の経営成果の計算および将来の経営計画の設定などに不可欠な知識を学び、研究を深める科目と共に、会計の新しい動向に対応する科目が配置されています。すなわち、簿記論、財務諸表論、財務会計論、管理会計論、原価計算論、などに加えて、キャッシュフロー会計論、国際会計論、そして今後、さらに重要度を増す、知財会計論、環境会計論などの分野を研究するコースです。

学位の授与

本学大学院ビジネス研究科（修士課程）を修了した者には、「修士（商学）」または「修士（経営学）」の学位を授与します。

税理士試験

税理士試験を受験し、簿記論か財務諸表論のいずれか一科目合格者で、会計学に属する科目に関する研究により修士の学位を授与された者が所定の申請手続を満たせば、会計学に属する他の一科目が免除される制度があります。なお、税理士試験における修士の学位等取得による試験科目の免除制度は、国税庁ホームページを確認してください。

医学研究科 教育・研究の目標

久留米大学大学院は、学校教育法に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、文化の進展に寄与することを目的とする。

「久留米大学大学院学則第1章総則 第1条 目的」より

大学院医学研究科規定 第1条 医学研究科の目的

久留米大学大学院医学研究科は、医学・医療の分野で先駆的な学術研究を推進するとともに、幅広い視野、高度の専門性と豊かな教養及び人間性を備え、国際的に活躍し、地域医療に貢献しうる優れた人材を育成することを目的とする。

本研究科修士課程は、各専攻分野の研究能力及び高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、教養、人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

本研究科博士課程は、医学・医療の各専攻分野において、自立した研究者として学術研究を推進する能力をもつ人材を育成するとともに、高度に専門的な医療業務に従事するために必要とされる幅広い学識、国際的視野ならびに豊かな教養と人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

（「久留米大学大学院医学研究科規程第1章 医学研究科の目的 第1条」より）